

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3874000353
事業所名	グループホームみしょうの里
(ユニット名)	大樹の家
記入者(管理者)	
氏 名	北原恵理
自己評価作成日	30年 6月 8日

【事業所理念】 日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活の支援。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 目標を、『入居者の方、1人ひとりと真摯に向き合い思いや意向を把握していく』とし、 ・日々の関わりの中で発する言葉をしっかりと聞き逃すことなく受け止め、皆で共有していく。 ・思いや意向を把握し、できるだけ希望に沿えるよう努めていく等、取り組んだ。 結果として、関わりをなるべく多く持つよう心掛けたつもりだったが、日々の業務に追われ、ゆったりとした対応が出来ず、優しい対応とはかけ離れた時もあったと思う。夕方になると家への思いが強くする方には、寄り添って周辺を散歩し気分が落ちつよう対応した。地域のイベントや季節ごとのドライブ、自分たちで育てた野菜を使っての料理を味わい、特技を活かした作品づくり等できることで自信や喜びに繋げるよう支援した。今後はさらに、表情や何気ない会話の中に本人の思いや意向を汲み取って支援を行っていきたい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道からすぐの高台に、法人が運営する特別養護老人ホームの敷地内に移転新築して1年の事業所である。事業所自体は開設後15年が経過している。事業所内は清潔で使いやすさが重視されたものとなっている。敷地内は広く菜園もあり、気分転換に利用者が散歩するスペースが十分にとられている。管理者や職員は、移転してから新しい環境に利用者と一緒に馴染めるよう工夫しながら支援に努めている。
---------------------------------------	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常の何気ない会話の中でも思いを汲み取り、思いに添えるよう努めている。	○		○	日常生活の中で利用者に声かけをするなど、会話の内容や利用者の表情を観察し意向や思いを把握するように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	言葉で思いを伝えることが出来ない方については、ちょっとした仕草や行動で把握に努めているが、十分ではないと感じている方もいる。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時にお聞きし共有を図っているが、ご家族が高齢となったり成年後見人制度を利用されている方については充分ではない。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	家族への思いで感情が揺れ、普段とは全く別の行動をされた時など日誌に要点を記し、詳しくはケース記録に記入し、全員で共有できるようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思いを見落とさないように配慮しているが、時には決めつけているのではと感じる時もある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所が決定した時点で本人や家族と共に生活歴や既往歴、生活状況や身体状況、介護に対する意向などのフェースシートを作成している。			◎	生活歴や嗜好品などを利用者や家族、友人等から聞きとり、フェイスシートに記載している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常の中で出来ることを見い出し、していただいている。洗濯物たたみ一つとっても、全部任せられる方、タオルのみの方、歌や会話等得意な方、聞き上手な方等把握している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	言葉を掛けた時の反応や顔色等見逃さないようにしている。不安を取り除く為、寄り添いながら気分転換出来るよう努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	要因については家族への思いや身体面での不調により不安定になっていることが多く、普段とは違う状態に気づけるよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	毎日、バイタル測定を行い体調面での記録、日中はレクリエーション等の記録、また夜勤者が夜間の状態を記録している。体調に変化があれば時系列で経緯を記録している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	少しの時間を利用してのミーティングや職員会議で話し合い、家族に報告し協力していただいている。両親の墓参りをする事で落ち着いた方もおられる。			○	日常生活の支援の中で職員が汲み取った利用者の希望や思いを、職員会議などで話し合い共有している。面会時には家族にも情報を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティングや職員会議で話し合っている。食事がうまく飲み込めなくなった、以前ほど活力が感じられない等問題を見つけ検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	食事については柔らかくしたり、一口大にしたり、ミキサーにしたりと栄養が摂れ体調が維持できるよう工夫し、精神面では看護職員を通じ、かかりつけDrに指示を仰ぐこともある。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	都合がつけず家族がカンファレンスに出席出来ない時は、面会時に意向をお聞きし、本人にも要望等確認しながらプランを立てている。	/	/	/	事業所内にある道具を利用し下肢筋力をつけ、外出する意欲が継続するよう工夫するなど、利用者の日々の生活に張りが出るよう支援している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	出席出来なかった家族には、面会時に説明し要望等活かされたものになっているか、了承を得ている。ご家族や保佐人は毎回「これで上等です」と言われるが、もう少し掘り下げた介護計画にする必要があるのではと思う。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方についてはまずは健康管理をあげている。食事や水分等栄養面、バイタル測定や投薬による体調維持、健康が維持出来てこそ慣れ親しんだ暮らしが楽しめると思う。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	入居者本人にもよるが、協力いただける家族や親戚の方、保佐人、Dr等サービス内容に入れている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	一人ひとりのケアサービス提供票を作成し、共有しながら毎日どうだったかチェックしている。	/	/	○	利用者の介護計画第2表をユニット毎にまとめ職員が閲覧できるようにしている。ケアの実践は、利用者別ケアサービス提供表に実施した職員がチェック確認し共有できるようにしている。日々の暮らしの様子の記録には至っていないが、病状変化等がある場合は時系列に記録されている。利用者個々に対する気づきや工夫については記載されておらず、今後工夫やアイデア等を組み込んだ支援を期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日、一人ひとりのサービス内容をチェックし、職員間で確認しながらケアを行っている。毎日実践できている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ほぼ毎日、短的ではあるが記録できている。状態変化があれば時系列に添って記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の行動やレクリエーション等楽しんでいただいたことを記録している。アイデアまでには至っていない。	/	/	△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月または6ヶ月毎に見直しを行っている。	/	/	○	3か月もしくは6か月で見直しを行なっている。月1回担当職員がモニタリングを行い、その記録を基に介護支援専門員が見直しの参考にしている。計画再作成時には担当者会議を行い、家族も交え話し合い見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	介護計画に沿って、毎月モニタリングを実施し、検討している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	退院後などは濃密カンファレンス、変化が生じた場合もケアカンファレンスを実施し、本人や家族からも引き続き要望等伺いながら、作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ミーティングや施設長も交えての職員会議で話し合いを行っている。	/	/	○	職員会議を定期的に行い話し合っている。気になることがある場合はミーティングを実施している。参加できない職員には記録を回覧し、会議内容が共有できるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	遠慮なく活発な意見交換が出来るよう配慮を行っている。入居者1人ひとりの対応のみならず、洗濯の干し場の変更等ちょっとした気づきも発言できる雰囲気がある。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議は日勤帯で行い、出勤している職員のみで実施しているが、会議に参加出来なくても、日々のミーティングでしっかり意見を述べており、反映される。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議担当の記録係が会議内容を作成し、職員全員に閲覧できるようにしている。、	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	毎日記録している日誌を活用。通院・外出・個別記録の他にユニット申し送り事項欄があり、どんなことでも記入可能としている。	/	/	○	日誌や会議録など内容を確認した職員は押印しており、管理者が最終チェックし押印できていない職員については、再度確認の上説明するなど、全員が把握し共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日誌には簡潔に記入し、パソコン内のケース欄に詳細に記録し情報が共有できるようにしている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	折り鶴やお手伝い、ちょっとした体操、会話、畑の野菜の育ち具合、昼寝等一人ひとりの思いに添えるよう努力している。				併設の特別養護老人ホームの行事参加への意向や、入浴の時間、散歩、外出や日常生活の中での役割など何をしたいか、利用者自身に決定してもらうよう努めている。日常生活の中で声かけや雰囲気づくりを工夫するなど、利用者のいい表情が引き出せるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自在園でのクラブ・行事参加や散歩、入浴時の浴槽に浸かる時間や衣類等、自身で決定し、好きな催しや洋服でおしゃれに快適に過ごせるよう支援している。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	夕方になると家への思いが強くなったり、自身で折った鶴を人にあげて喜んでもらいたい等の思いに対し、家族の写真を見せて落ち着いてもらったり、他入居者の方々に鶴を配って直接お礼を言ってもらって心を和ませてもらっている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床・就寝時間、食事や入浴時間等、一人ひとりのペースに合わせて対応している。声かけで起床していただいても体調がすぐれず食事が進まずといった経験もあり、自分から起きて来られるまでは様子を確認しながら待っている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	言葉かけにより輝くような表情をされる時がある。それを見逃さず言葉を選びながら支援を行っている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難であっても、昔の経験が生かされ笑顔が引き出される事がある。看護師だった方には身体のことを相談したり、医師や患者さんの話でつつまは合わないまでも笑顔で話しがはずむこともある。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	外部講師を招いての御荘福祉施設協会全体の職員研修会に全員参加して学んでいる。人格を持った一人の人間として接している。	○	◎	○	法人全体で研修会を開催しており、夜勤者以外は全員参加している。研修会で学んだことを活かせるよう努め、トイレ誘導など声かけや支援方法も考慮している。利用者の居室には、声かけし利用者に許可を得て入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	言葉遣い等、敬意を払っているが、トイレでの排泄支援を行う際には、人前であるにも関わらず「トイレに行きますか?」と声かけする時がある。耳元やさりげない行動で配慮すべきだと反省することがある。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレの戸をしっかりと閉め、排泄時間を確保している。脱着時や入浴時等プライバシーにも配慮を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入居者の方が居室に居られる時はノックをし、訪室。リビングに居られる時は声かけし入室の許可を得ている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護に関する義務が課せられていること、良く理解しており、遵守できている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔の話や戦争の話等、為になる話や身につまされる話で勉強させていただくことも多い。				職員が利用者を常に見守っており、利用者同士の会話には注意を払うほか、関係性を重視した席配置にするなど配慮しており、トラブルには発展していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	テレビのチャンネルを変えられない方や小さな声しか出せない方には代わりに、危険が迫っている時には大声を出して、支え合って生活されていると実感している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者の方々の関係性を把握し、トラブルを回避している。お節介が過ぎて敬遠されがちな方に対しては、言葉が過ぎないよう配慮したり、仲良く会話したりテレビを見たりできるように近くに座っていただいたり、食べるのが遅い方には同様の方と食事が楽しめるよう支援を行っている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	たまにお節介が気に入らず黙り込んだり、顔を赤らめ小さい声で文句を言ったりされるのを見かけることがある。すぐに仲を取り持つ対応をしている。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時のフェースシートや面会時等で把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	生活歴や本人が時々口にする場所などで把握できている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所に出掛けたり、近くをドライブしたりと支援している。懐かしい場所に近づくと、「ここでお店をしていました。」等話も弾む。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られたら、居室でゆっくり過ごしていただいたり、あるいはリビングで他入居者の方々と共に笑顔で談笑される事もある。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	入居者の方それぞれの希望等に合わせ支援している。特養との交流時は数十メートルの距離を散歩していただく。また特養の所にはグループの畑があり、草引きや種まき、野菜の収穫等していただいている。季節毎のドライブも楽しんでいただいている。	○	○	○	敷地内にある菜園での収穫や草ひきを行ったり、車いす等重度の利用者も含め、散歩や外出、ドライブに行けるよう支援を行い気分転換を図っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	近隣小学校の運動会や学習発表会に参加したり、系列保育園の各種行事に参加したり、他施設の運動会に参加している	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子を利用し散歩やドライブ等で気分転換していただけるよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望で甥の方に協力していただき、お墓参りに連れて行っていただいた。ふさぎ込んでおられたのが一挙に回復された。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者の方の精神面含め理解しており、対応しているが、職員全員が正しく理解しているとはいえない。	/	/	/	食事の場面や排泄での支援でも、利用者ができることは見守り、利用者自身ができることはしてもらっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食後10分前には通常通りだったのに、ふいに意識喪失になれたりする。誤嚥していても伝えることが出来ずに起きてしまう可能性が高い。歯（義歯）の状態を観察し早急に治療する、口腔体操等支援する。散歩やラジオ体操等負担にならない程度に行ってもらい筋力維持に向けた支援を行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	◎	入居者1人ひとりのできることに目を向けて対応している。洗濯物たたみについても全般を任せたり、タオルのみ、同じ色や柄の靴下だけ等、経験を踏まえ自信を持って行っていただけるよう工夫している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	80歳の方は学生時代、体操部だったことが自慢で足を高く上げ運動される。96歳の方は戦争中捕虜としてシベリヤに行ったことを淡々と話される。一人ひとり存在が歴史、学ぶことが多い。	/	/	/	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の後片づけなどを手伝ってもらなど、利用者は役割をもって過ごしており生きがいに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	趣味の折り鶴や俳句づくり、掃除や片付け等日常の中でさりげなく出来ることをしていただいて、張り合いが持てるよう支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	近隣小学校や他施設の運動会、町の催し等に参加したり、NHKのど自慢の予選会出場等で楽しみや張り合いを持っていたいたが、まだまだ地域との関わりが少ないと感じている。	/	/	/	

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎朝、各居室の洗面所で身だしなみをチェックしていただいている。髪を伸ばしたいという方にはヘアバンドや髪留めでまとめてもらったり、希望の美容院の方をお願いしたりと個性を大切にしている。				食事中の食べこぼしなど、利用者がいやな思いをしないようさりげなく支援している。重度であろうと利用者全員の整容をチェックするほか、好みの衣類を準備しその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	全員ではないが、季節ごとに、ご家族が本人の好みの衣類を持参されている方もおられる。入所前から利用している美容院の方にカットをお願いしている方もおられる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	気持ちをうまく伝えられない方については、職員が選ぶことが多いが、ほとんどの衣類は本人が気に入って購入されたものを持参されている為、満足されているのではと思う。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段着と外出着を区別し、スカーフや帽子等も使っていただいたりして、本人やその場にふさわしい服装を心がけている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣の乱れや食べこぼし、口の周辺の汚れ等気をつけている。よだれの多い方についてもタオルでさりげなく拭き取ったりと自然な形で行うよう心掛けている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	入居されるまで行きつけだった美容院の方に来てもらったり、ご家族と外出された際に散髪される方もおられる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人に似あう髪型を伝えカットしてもらったり、男性入居者については毎朝髭剃りの声掛けや支援を行っている。服装も本人好みのものを着ていただいている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事一連の作業を入居者の方で行う事で、食事がより楽しいものになることを理解している。				食事は職員が注文しスーパーからの配達である。おやつのみ利用者と共に近隣のスーパーに出向き、一緒に選んで購入している。献立には、季節に応じた郷土料理が入っており、利用者も「この食事はおいしいのよ。」と嬉しそうに話されていた。茶碗や箸など使い慣れたものではないが、軽く割れにくい使いやすいものを使用している。職員は利用者と同じ食卓に座り利用者の食事介助や見守りに徹し、誤嚥や利用者同士のトラブルなどに対応できるようにしている。利用者全員が食卓を囲み料理ができるまでの時間を過ごし、音やにおいを感じ食事を待っている様子を窺うことができた。法人の栄養士が献立を作成しており、アレルギーを考慮し利用者にとってバランスの取れたメニューを提供している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立は特養の栄養士が立て、食材は近隣のスーパーより配達。テーブル拭きや食器の片付け等していただいている。おやつのみ入居者の方と一緒に買い物に行って好きな菓子等選んでいただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ごぼうのささがきや豆のすじ取り等の下ごしらえ、下膳やテーブル拭きの後片付け等負担にならない程度に出来ることを手伝っていただき、お礼をきちんと伝えることで自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時に本人や家族に聞き取り調査を行い、フェースシートに記載し、職員全員で把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春にはタケノコ料理や地元名物のカツオのたたき、包丁汁、冷や汁、鯛めし等提供している。また毎月1日にお赤飯を食べていただいている。その季節の旬を味わっていただいたり、懐かしいもので毎食「美味しい」と、喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの咀嚼、嚥下状態を把握した食事形態で提供し、盛り付け等も工夫しているが、ミキサー食の方が4名おられる。さらなる工夫が必要。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個別ではないが、使いやすく割れにくい物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者の方と一緒に食事はしていないが、同じテーブルで見守りや声かけ、一人ひとりのペースに合わせた介助等行っている。食べこぼしがあればさりげなくサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチン・リビングを囲んでそれぞれの居室があり、食事時になれば、ほとんどの方がリビングに集まり、音や匂いで食事をさらに待ち遠しく楽しみにされている。献立表を見たり、メニューを伝えることで食欲をそそっている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりの食事量や水分量を把握している。毎身体重測定を行い増減をチェックしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量が少ない方については好物で捕食したり、摂取回数を増やすなどの配慮を行っている。水分もヤクルトやジュース等で十分摂っていただけるよう工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	特養の栄養士が立てた献立表を元に調理しており、バランスは取れている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板やふきん等の熱湯消毒を毎日行っている。食材は2日分を配達してもらい、新鮮な食材を使用している。賞味期限の確認も行っている。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	特養での職員研修会に参加し、口腔ケアがいかに大切か、学んでいる。				口腔ケアの勉強会などを法人内で開催している。洗面所が各居室にあり、一人ひとりに応じた口腔ケアの準備は整っており、口腔内の清潔保持は常にできている。自分で歯磨きができる利用者に対しては口腔内の確認ができていないため、今後は利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握する支援を期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	自分で口腔ケアを行う方のみ把握出来ていない。他の方については把握できている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	毎月、特養での口腔ケア委員会に参加し、歯科医より指導・助言を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	職員が付き添いながら支援を行っている。週に3回ポリドント使用し清潔にしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	コップや歯ブラシ等の口腔ケア用品を準備し、それぞれに出来ることをしていただいている。全介助の方については、歯磨きティッシュ等使用したり、それぞれに合った方法で清潔の支援を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	ご家族に連絡し、それぞれの方の行きつけの歯科医院に受診していただいている。また、状態によっては往診により診ていただいている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立が生きる意欲に?がっていくという事は理解できている。オムツを使用していた方が支援によって、手すりを持ってどうにか起立が可能となった時、トイレで排泄していただいた。その方の喜びは大きかった。				トイレでの排泄を基本として、昼間は紙パンツ、夜間はテープ止め紙オムツにするなど、利用者個々に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘は十分な食事量・水分量が摂れずに起こる。その上に運動不足も原因となる。腹筋力が無ければ腸がうまく作用できない。便秘になると食欲が落ち栄養不足となり、体調面だけでなく精神面でもダメージを受ける。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	一人ひとりの排泄チェック表に時間を記入し対応。排便あれば時間を○で囲み、量については線（点線または1本線）を引いて全員で把握できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	オムツの使用は、その時の状態に合わせた支援が行えている。今後も常に見直ししながら快適に過ごせるよう努めていく。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分が少ないのではないか、活動量が減っているのでは、等話し合いの場を設けながらスムーズな排泄に向けて検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	入居者の方それぞれの排泄パターンを理解しており、早めの声かけや訴えで支援を行っているが、間に合わず失敗されていることも時々ある。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	「96歳という高齢なので夜はゆっくり寝て欲しい」とご家族より要望があり、昼間はトイレでの排泄だが、夜間はテープ付オムツを使用している方もおられる。オムツ代もご家族負担となる為、十分に話し合いながら使用させていただいている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	入居者の方一人ひとりの排尿量や状態に合わせて、随時見直し、検討しながら対応している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	△	水分や栄養面で十分支援出来ていると思うが、一部の方は自然排便が行えず飲み薬や座薬を使用している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴回数と曜日は決めている。湯加減や入浴時間はそれぞれの方の好みを把握しており、支援出来ている。	◎		△	週2回の入浴を基本としているが、入浴時間は午前中のみと決めている。曜日の変更も難しいため、午後からの入浴や入浴日も要望に応じるなど、今後は柔軟な対応に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	毎回入浴される度に「いい湯だな」を替え歌で唄い、「お風呂はやっぱりいいですね。」と、くつろがれる方がいる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声かけしながら、その人の出来ること（腕のみ、あるいは全面のみ）に目を向け、していただいている。声かけ・見守りながら安全への配慮を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	その時の気分により入浴を拒まれたら、時間を置いて声かけを行っている。すると気分が回復していることが多く、機嫌良く入られる。原因や理由も理解できている。入居されている方は皆さんお風呂好きな方ばかりである。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタル測定を行い、昨日や朝からの状態を確認し支援している。入浴時に皮膚の状態も確認。入浴後の状態も行動を観察しながら把握している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間、入居者の方それぞれがどうであったかケースへ記録できており、職員は共有している。				夜間不眠で困っている利用者に対して、話を聴いたりリビングで一緒にテレビを見るなどの支援をしている。安易に睡眠導入剤に頼らないよう努めているが、やむを得ない場合は、夜間の記録を持参し医師と相談しながら薬を使用する場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	普段から昼寝を趣味とされている方の時間を調整したり、散歩等していただいている。夕食後も「横になりたい」と言われたり、眠そうな様子をされるまでリビングソファで過していただいている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間の状態記録を持参し、精神科Drへ相談したこともある。どうしても落ち着けない方については、Drと連携しながら対応に努めている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	各入居者の方それぞれに個室(心身ともに安らぐ場所)があり、対応できている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	誕生日等に贈り物が届いた時など、本人から直接お礼を言っていたり。声を聞くことで送られた方もお互いに安心していただける。普段からご家族と交流できているが年に1度は年賀状送付等検討する。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	番号は支援するが、電話の通話口に出て話していただいている。年賀状等、本人の出来る支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	「電話をかけたい」との訴えは今までなかったが、要望等あればすぐに対応できるように配慮する。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙や葉書が届けば、直ぐに相手と電話で連絡を取り近況報告し、ご本人とも通話していただいている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	贈り物がご家族や親戚の方から届いた時は、直ぐに電話連絡し喜んでいただいている。電話や手紙の願いはしていないが、よく理解されている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ているが、支援は行えていない。一部のみお預かりし、受診代や薬代、日用品等の購入に充てている。入居者の方でお金を所持されている方はいない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的ではないが、預かっている所持金を渡し、趣味の折り鶴の為の色紙を自由に選んでいただいて、ご本人より支払っていただいた。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近隣のスーパーに菓子等の買い物に職員と行っていただいているが、スーパーまで遠く歩いて行ける距離ではなく、働きかけを行っていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ご家族に相談し、希望により少額のみお預かりしている。ご家族からも本人所持の希望はなく、入居者の方はお金を所持していない。本人から希望の品があれば、ご家族に伝え持参していただいている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	預かり金台帳に記入し、お金の入出金を記入し、家族面会時に確認していただいている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時にご家族と、預かり金等管理依頼書や金銭管理出納サービス契約書を締結している。預かり金台帳に入出金を記入し、ご家族に確認していただいている。保佐人については、定期的に預かり金台帳のコピーをお渡ししている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族が高齢や都合により受診介護できなくなった方については、職員が送迎し、受診時も付き添っている。	◎		◎	病院受診など家族に支援を依頼する場合もあるが、利用者や家族が希望すれば職員が受診の送迎から付き添いまで対応するなど、状況に応じて支援を行っている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	特養と同一敷地内にあり、玄関周りには季節の花を植えたプランターを置いている。小高い山の中 腹で特養から奥に入っており、環境的には最高の場所に建てられている。	◎	◎	○	玄関先には季節の花を飾っているほか、掃除が行き届き、気持ちがよく清 潔感が感じられいい雰囲気である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	○	リビングを中心として各居室に分かれている為、リビングでは居心地よく過していただいている。玄 関等にも季節毎にその季節を感じられる物を入居者の方に手伝っていただきながら飾っている。 玄関横には家族の方が持参された上品な絵画も飾っている。陽当たりもよく、心地よく過ごしてい ただいていると思う。	◎	◎	◎	事業所が建て替えられまだ1年であり清潔感が漂い掃除も行き届いてい る。リビングの壁には絵画や利用者の作品が飾られている。大型テレビの 前にゆっくりと腰掛けられるソファがあり、利用者がそこに座り趣味の折り 紙を折っている情景が見られた。リビング正面の大きな窓からの光や風は 心地よいものだと感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	汚れがあればすぐに拭き取り、トイレ後の臭気対策も行っている。毎日床消毒も行い清潔が保てて いる。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	リビングの隅に台所があり、材料を切る音や匂い、彩りよい盛り付けで食欲を刺激したり、そろそろ 昼食では、と時間を知る目安となったり、ホームの畑ではきゅうり、ジャガイモや玉ねぎ等季節の野 菜の植え付けや収穫を手伝っていただいたり、五感に働きかける支援を行っている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングのソファや気の合う隣のユニットの入居者の方々と思い思いに過ごしていただしてい る。各個室となっており、居室がリビングへ通じている為、人の気配を感じながらもプライベートが 確保出来ていると思う。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	トイレや浴室にはドアがあり、その上に浴室にはカーテンも設置されており、プライバシーを保つこ とができる。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	家庭で使っていた桐タンスを持って来られていた方もいた。その方は亡くなられたので、現在家具 等を持参されている方はいない。今後も本人や家族の希望通りに対応したい。	◎		○	利用者が自宅などで使用していたお気に入りの物を持参し、趣味活動が継 続できるよう居室に自由に配置している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりを設置しており、歩行できる方であれば手すりを使用しながら安全に移動出来ている。居室 では歩行不安定な方に起床したらすぐに使用出来るよう歩行器を置いている。			○	手すりを設置し安全を確保しているほか、歩行に不安があっても歩行器を 使い、できる限りひとりで歩けるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	トイレ洗剤等の危険な物品は入居者の方の目の触れないようにしている。居室も名前で自分の部 屋だと認識出来るようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	入居者の方の中には、掃除用具の場所が分かっており床に汚れがあればすぐに掃いていただい ている。花の水やりも声かけひとつでしていただいている。趣味の折り鶴もいつでもすぐに出来るよ う紙をいつも傍に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	鍵をするということは、開放感がなく自由に行動できない辛さしか感じられない。悲しみが漂う。特 養での身体拘束高齢者虐待防止委員会や職員研修会で繰り返し学んでおり、理解できている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかける弊害を理解し、玄関は自由に出入りできるようにしてい る。職員が常に見守りを行い、安全に日常生活が送れるよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中はホーム内全てに鍵をかけない、という事をご家族は認識されている。面会時はいつでも自 由に来訪されている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関にのみ報知器を設置し、音で出入りが分かる工夫をしている。その音で職員は確認しながら 対応できている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時のフェースシートやご家族の面会時等で把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	常に状態を観察しながら異常の早期発見が行えている。異常があれば時系列でケースに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	普段とは違う症状があれば、看護職員に伝え受診の方向へ繋げている。早期発見であればあるほど症状も軽く入院期間の短縮にもなり、退院後も以前の生活が出来る。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご本人や家族、かかりつけの医療機関を受診している。車椅子の方の場合、送迎は支援を行い、付き添いはご家族が行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人やご家族の希望を取り入れた医療機関に通院し、適切な医療を受けられている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族や保佐人が付き添えない場合は、連絡を取って、受診結果をこまかく報告し、ご家族等の合意を得ながら話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は近場のケース記録やバイタル表、既往歴・服薬手帳を持参し、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	お見舞い時に実際に状態を確認したり、病院関係者(Drや看護師)との連携に努めている。退院前に、病院でのカンファレンスに出席しDrより退院後の対応について情報を得ている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時には、面会時や電話で連絡を取っている。かかりつけ医でない場合、その限りではない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護職員が配置されており、少しでも状態に変化があれば報告しながら対応してもらっている。看護職員よりかかりつけ医や救急外来等へ連絡してもらったり、日々の擦り傷や打撲痕等の処置やバイタル等に変化があればすぐに知らせ、対応してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職員が配置されており、連絡体制は出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定し状態を把握。また状態観察で少しでも普段と違う兆候が見えたらすぐに看護職員へ報告し医療機関等への対応をしてもらっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医療機関から出された処方箋をそれぞれのケースへ綴っており、確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	看護職員が薬を仕分けし、介護職員2名で名前を確認、本人の前で声に出してもう一度名前を確認し服用していただいている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の状態を観察しながら支援出来ている。表情はどうか、落ち着いて過ごされているか、食欲はどうか等、日々観察している。少しでも変化があれば、看護職員へ報告し対応してもらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	ほぼ2ヶ月毎に昼間も眠れず、夜間も不眠状態が3晩続いて落ち着けない方に、薬の処方があった。服用後は日中・夜間とも落ち着きを取り戻された。経過はケース記録に記入し看護職員とも共有できた。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合における対応についての同意書にサインをいただいている方もいるが、その時にしなければ決められないと言われるご家族もいて、重度化した時に改めて話を伺っている。				利用者が重度化した場合、主治医を交え家族や利用者と職員とが話し合いを行い、思いを把握し看取り支援につなげている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化となった時に、改めて医師を交えてご家族と話し合っている。ホームで看取るのか、医療機関で終末を迎えるのか、ご家族の思いに添って支援している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看護職員とも、どこまで支援ができるのか話し合っている。力不足の職員もいるが、2ユニットの為、夜勤帯の職員の組み合わせを考慮すれば、ホームでの終末期の支援が可能と考えている。ご家族の思いに添って支援を行っていきたい。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族より重度化となった時の同意書をいただいている方もいるが、重度化となった時に、改めてご家族と話し合い、意向をお聞きしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化し病院で終末期を過ごされる方については、ご家族に状態をお聞きしながら、お見舞いに伺い、本人やご家族の心情に寄り添った。終末をホームでこのまま迎えたいとの希望があれば、ご家族の意向に添って支援を行いたい。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	夫がイレウスで入院中に、妻が突然、体調が急変し死去。その方たちには子供もなく成年後見人制度を利用している。夫には伝えたが、退院後ホームに帰って来られた時に妻の姿を捜すのではないか。その心情を思っの言葉かけをする。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	特養含む職員研修会で定期的に感染症について学んでいる。毎年、12/1～3/31または4月初旬までインフルエンザ対策でマスク着用を義務付けられ、手洗いや各所の消毒で特養初めグループからも発症者は一人も出なかった。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	職員研修会で実践している。ノロウイルス感染者が嘔吐し、その処理の仕方を実技を交え訓練している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症対策を安心マニュアルにも記載し特養よりすぐに感染症発生情報がもたらされ、対応できている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	特養よりすぐに感染症発生情報がもたらされ、対応できている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いやうがい、感染症が発症する12/1～4/末までは出勤時に検温したり、来訪者にも手洗いや検温等に対応した。気持ち良く応じていただけた。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族の思いを受け止め、いい関係が築けているのでは、と思っている。				家族の行事への参加は、移転してから具体的な取組みができておらず、併設の特別養護老人ホーム行事に参加するだけになっている。今後以前のような行事や取組みを検討するなど期待したい。利用者の写真が掲載されている機関紙「自在」と「みしょうの里だより」を家族などに送付している。家族の面会時などには、事業所の運営上のことや職員の異動等についても報告している。利用者が病気になっても好きな物を食べさせたいという家族の要望に応えるなど、家族からも相談しやすい環境を支援に活かしている。家族の面会時には常に声をかけるようにしており、何でも気軽に相談できるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時は、笑顔で気持ちの良い挨拶を心がけ、つかず離れずといった距離を保ちながら、ゆったりと心地よく過ごせるよう配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	以前は夏祭りに食事や花火を楽しんでいたいたり、庭でのソーメン流しや、離れでのクリスマス会に参加していただいた。移転してからは、特別な催しは行っておらず、検討が必要。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	毎月発行する社会福祉法人御荘福祉施設協会の機関誌にみしょうの里だよりとして、日常のひとこまを写真付きで掲載し送付させていただいている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族は入居者の方が重度化した場合に対して不安があり、その対応について相談されることが多い。また、新入所の方であれば外泊等についても相談があり、その都度、丁寧に説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	ご家族との関係性を理解しており、それぞれに見合った対応に努めている。他県に嫁いだ娘さんは毎月1週間程帰省。その間、毎日面会に来られ絆を深めている方もおられる。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	面会時や来月の大まかな予定は機関誌で報告を行っている。利用契約に一部でも変更があれば電話でまず主旨を説明し、実際に来訪していただき詳細を説明、署名・捺印していただいている。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	特養での運動会や運動会に参加していただき、その時には大勢の方のご家族の参加があり交流できた。ご家族同士の交流に向けて検討していく。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	入所時や面会時、またはケアカンファレンス時に日頃の状態を説明し、転倒や誤嚥、それに伴う骨折や誤嚥性肺炎の可能性を説明し、付き添いや歩行器の有無、食事の工夫等理解していただいている。				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	何でも気軽に相談できるよう配慮を行っている。季節ごとの衣類の入れ替えや布団の交換等、遠方に嫁いでいるご家族とも連絡欠かさない。			○	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	利用契約書に記載し、説明により納得していただいている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用契約書の退去時の援助の中で「入居者やその家族に必要な援助や居宅介護支援事業所への情報提供、保健医療サービス、または福祉サービス機関等と密接な連携に努める」と記載している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	利用契約書に基本料金や加算料金、加算の内訳や介護保険給付サービス等（家賃、食費、光熱費、共益費等）記載し、説明により同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の代表者（区長）や地区の代表者、民生児童委員、町役場の方に出席していただき運営推進会議等を利用し説明し理解を深めていただいた。	/	○	/	町の地域交流文化祭に利用者と参加し大勢の方と交流をしたり、地方祭では子供の頃から馴染みのある唐獅子などの行事を楽しむなど、地域との交流を深める取組みに余念がない。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	町の行事に出掛けたり、近隣小学校の発表会への参加、運動会や施設が主催する地域交流文化祭では大勢の方の来訪があったり、また地方祭では牛鬼、四ツ太鼓、ハッ鹿、唐獅子等子供の頃から慣れ親しんだ催しを楽しまれている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の一人暮らしの方を見守りサポートするネットワークに参加しており、ほぼ毎月、オカリナ演奏に来て下さる方もおられる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	山の中腹という環境的には申し分ない場所に建っているが、時々見学には来られるものの気軽にというほどではない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ホームのすぐ上に一軒あり、鶏の鳴き声が聞こえたり、猫を見かけたりし、車ですれ違った時など挨拶は行うものの定期的なお付き合いには至っていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	特養が色々な行事開催する時に参加し顔を覚えていただいたり、特養入居者の家族の方がオカリナ演奏に来て下さる。初めは一人での来訪だったが、現在は2名での来訪となった。29年度には夏休みこどもボランティアに取り組み、職場で働く姿を見てもらった。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	魚では鯛やカツオ。鯛めしにしたり、カツオのタタキ、また冷や汁や包丁汁等、昔から馴染みのある料理が一番の活力となっているのでは、と思い、出番を増やしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	近隣のスーパー等からの食材配達、美容院来訪によるカット、消防署と連携しての消火訓練や避難訓練、非常災害時の対応（風水害）、救急救命講習、警察署より不審者対応についての講習、町内ののグループホームや小規模多機能施設との合同会等関係を深める取り組みを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2ヶ月毎に開催しており、毎回ご家族や地域の方に出席していただき、声をお聞きしている。	×	/	△	運営推進会議では、外部評価の結果報告等はしているが、運営推進会議に出席していない家族等もいるため、今後機関紙と一緒に会議の議事録を送付するなど、外部評価の周知等を行い家族にも理解してもらうような取組みが望まれる。会議での意見として、外灯の設置等の要望が出され、即検討し設置に至るなど早急に対応している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	実際に取り組んでいることについて随時報告を行っている。外部評価に関しても提示し、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の中で夜間、避難誘導時に足元が危険な為、グループにも外灯が必要ではないかという意見が地域の区長さんより言っていたき、すぐに設置した。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加される方に連絡を取り、都合のいい日程や時間帯に合わせて行うよう配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	いつでも、どなたにでも閲覧していただけるよう会議録は玄関に設置している。参加メンバーの方に前回の議事録を手渡している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「日々の暮らしの中で語り合いその人らしい生活の支援」を理念として掲げ、目に付きやすい場所に掲示し、確認しながら取り組んではいるが、時には入居者の思いを見過ごすこともある。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	面会時に、目に付きやすいリビングに掲示している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	全員のケアの実際と力量は把握しきれていないと思う。法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいるが、高齢者雇用となった者については外部研修は実施していない。				代表者は法人全体の親睦会として、夕涼会やレクリエーションを取り入れ、職員同士が交流し会話できる機会を提供しストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	法人内の新規採用職員研修会開催等においてスキルアップ向上にむけ取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度を取り入れ、本人の目標や要望・意見等、また面接において意見を聞き、職場環境や条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内のグループホームや小規模多機能施設の代表者が集まり3ヶ月毎に会合を開催し、意見交換しながら情報を収集し、職員の意識が少しずつでも向上するよう取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	親睦会の中で夕涼み会やスポーツレクリエーション等を組み入れ、各事業所が一体となるよう取り組んでいる。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	毎月、身体拘束高齢者虐待防止委員会を開催し、話し合っている。職員研修会でも外部講師を招いたりたりしながら学んでいる。言葉や表情だけでなく、目の動き一つでも虐待に当たると感じている。				法人作成の虐待防止に関するマニュアルを掲載した「安心マニュアル」を職員全員が常に携帯し、不適切なケアがないよう日々業務に励んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議のみならず、少しの時間を見つけてはミーティングを行い、振り返りをしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ほんの些細なことを見逃せば、取り返しのつかない状態になってしまう事を理解している。発見した場合はすぐに報告し適切に対応していく。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	顔色や表情、声のトーン、入居者の方への接し方等を確認しながら日頃と違う変化に気をつけてはいるが、見逃している時もあると思う。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	行動を制限する為に紐でしばったり、ベッドを柵で囲ったり、ミトンの手袋やつなぎ服の着用等の禁止、緊急やむを得ない場合とは、切迫性、非代替性、一時性の3つの要件をすべて満たしていること等、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に職員研修会で学びながら、話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今まで家族から要望はないが、拘束をしないケアの取り組みは出来ている。センサーマットの使用やベッド柵には鈴を付けたり、玄関には報知器を設置したりと工夫している。。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	福祉サービスの利用や書類の書き方等社協の生活支援員が行うのが日常生活自立支援事業、成年後見制度は認知症などにより判断能力が十分でない方の財産管理等を行い家庭裁判所で認められた方等、毎年職員研修会で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	成年後見人制度を利用されている方については、現在2名の方が入居されている。入居されてから家庭裁判所より調査があったが、その制度について今まで対象者がいなかったので支援は行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	既に入居された時点では契約されており、制度利用の助言等は行っていない。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	職員全員で作り上げた安心マニュアルを各職員が所持している。各症状別対処方法も掲載しており、確認している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	誤嚥等の訓練は受けているが、急変に対応できる職員は限られている。異変があればすぐに看護職員(グループ担当の看護師が不在の時は特養の看護師)に知らせバイタル測定を行い、看護職員の指示に従っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	些細なことでもひやり報告書に記載、受診した場合はインシデントや事故報告書に記載し、職員全員で再発防止に向けて検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	立ち上がりや歩行時にふらつきがあれば転倒し骨折のリスクがあり、誤嚥による窒息や顔色が悪ければ意識障害を起こすリスクも考えられ、見逃さないよう対応に努めているが、職員のレベルにより対応できていない時もある。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	安心マニュアルの項目の中に「相談・苦情処理体制」を作成、相談や苦情があった場合についての検討を行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	代表者に報告する等、速やかに手順に沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	グループとしての苦情は1件のみ。入居者の方の体調が悪化し、看護職員が頻繁に状態を報告していたところ、家族より「連絡が多すぎる。仕事中なのにそんな細かい報告はいらない」との苦情があった。ご家族より「何でも知らせてください」とあった為の対応だったが、配慮に欠けていた。今は良好な関係が築けている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	人権擁護委員による特設人権相談所の開設や傾聴ボランティア等によってお世話している職員には話せないようなことを言える機会を設けている。職員も日頃から何でも話せるような雰囲気づくりに努めている。			○	法人に人権擁護委員が配置され、利用者が職員に言えないことを聞く環境づくりを行っている。家族等からは面会時や行事開催時、運営推進会議などに相談する機会を設けている。管理者は職員と利用者に関する話し合いも常に行い、意見や提案を検討できる関係が築けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口や意見箱を設置したり、運営推進会議・または意見等あれば個別の対応に努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	御荘福祉施設協会全体としての「苦情申出窓口」を設置し、相談を受け付けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	年に1回は職員全員と面接を行っている。本音の部分は話せていないと感じる。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	関係性は築けており、日頃からのミーティング等話し合いの中で入居者の方それぞれに合わせ、その人らしく生き活きと生活していただけるにはどうすればいいか検討を重ねている。			○	

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	提供している支援が適切なものか振り返ることが出来、第三者の客観的立場からの評価により、利用者本位の支援の為のサービスの質の向上に繋がっている。				評価結果の報告はできているが不十分なので、今後は取組み状況も報告し、家族など会議の参加メンバーにモニターしてもらうなど、今後の運営にも活かせるよう検討することが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価後は改めてそれぞれの項目を振り返り、特に出来ていない事や出来ていても見過ごしていること、家族アンケート結果や調査員の意見を参考にしながら話し合っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて達成計画を作成し、家族アンケート結果や調査員の方の意見を参考にさらなる支援の向上に向けて取り組んでいく。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議(家族代表の方も参加されている)で詳しく報告はしているが、今後の取り組みのモニターはしていただいていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に沿って、今よりも少しでもサービスの質が向上するよう取り組みについて記載し、成果を確認していく。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・風水害等の災害発生時の対応についてマニュアルを作成し、各職員が所持しており周知できている。				年2回の避難訓練は実施されている。うち1回は、消防署立会いで実施している。地域に住居が少なく連携が難しいが、併設の特別養護老人ホームと合同避難訓練を計画実施するなど、災害時等の連携強化に取り組み、利用者の安全確保に万全を期すことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署に協力をお願いし消火訓練、日中や夜間を想定しての避難訓練、非常災害時の対応(風水害)、救急救命講習、警察署からは不審者対応についての講習や実技があり、参加しながら職員全員で学んでいる。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	火災発生時の警報器や消火設備についてはスプリンクラーや消火器を設置しており、避難訓練では避難経路を再確認している。非常用食料等は特養に地域の方まで受け入れ可能分準備し、定期的に確認し期限内に入れ替えている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域住民の方とは運営推進会議や法人全体の様々な行事等での連携、また急患が出れば5分もかからず駆けつけてもらえる消防署との連携、それに続く医療機関、他事業所との交流等支援体制が確保出来ている。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	グループ独自には取り組んでいないが、法人全体としての災害時の責任者を擁立しており、その職員や法人の代表者が警察での講習会に参加したりし地域の災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーターとして、地域住民に認知症を少しでも理解をしていただく為に出向いたことがある。代表者は県の認知症講師を務めており、法人でもその知識を活かし勉強会を開催することもある。				地域の人達の相談支援には至っていないので、法人にも協力してもらい、事業所の広報活動を行い地域の相談拠点となるような事業所を目指して欲しい。法人全体として教員研修の受入や学生の実習受入れ、また町のイベントなどにボランティアとして地域活動を行うなど、地域のケア拠点となっている事業所である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談支援とまではいかないが、「グループにはどうすれば入居できるのか」との相談が多い。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループでは行っていないが、特養の文化祭時に地域の方の手作り人形やパッチワーク、絵画のコーナーを設け展示したり、会議室をスポーツクラブ等の会議に使ってもらったこともある。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	教員や学生を介護体験事業の一環として受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町のイベントにボランティアとして道案内やお接待等で参加させていただいている。その中で顔見知りとなり、繋がりが出来、施設の盆踊り大会や文化祭等に来訪していただき入居者の方と挨拶やひと言ふた言葉言葉を交わしたり。それが発端となり、さらに広がっていている。法人の1年にも及ぶ教員の受け入れや学生との繋がりが、御荘福祉施設協会全体として地域のケアの拠点としての機能は拡大していていると思う。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3874000353
事業所名	グループホームみしょうの里
(ユニット名)	四季の家
記入者(管理者)	
氏 名	北原恵理
自己評価作成日	30年 6月 8日

【事業所理念】 日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活の支援。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 目標を、『入居者の方、1人ひとりと真摯に向き合い思いや意向を把握していく』とし、 ・日々の関わりの中で発する言葉をしっかりと聞き逃すことなく受け止め、皆で共有していく。 ・思いや意向を把握し、できるだけ希望に沿えるよう努めていく等、取り組んだ。 結果として、関わりをなるべく多く持つよう心掛けたつもりだったが、日々の業務に追われ、ゆったりとした対応が出来ず、優しい対応とはかけ離れた時もあったと思う。夕方になると家への思いが強くなる方には、寄り添って周辺を散歩し気分が落ちつよう対応した。地域のイベントや季節ごとのドライブ、自分たちで育てた野菜を使つての料理を味わい、特技を活かした作品づくり等できることで自信や喜びに繋げるよう支援した。今後はさらに、表情や何気ない会話の中に本人の思いや意向を汲み取って支援を行っていきたい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道からすぐの高台に、法人が運営する特別養護老人ホームの敷地内に移転新築して1年の事業所である。事業所自体は開設後15年が経過している。事業所内は清潔で使いやすさが重視されたものとなっている。敷地内は広く菜園もあり、気分転換に利用者が散歩するスペースが十分にとられている。管理者や職員は、移転してから新しい環境に利用者と一緒に馴染めるよう工夫しながら支援に努めている。
---------------------------------------	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居者との会話の中で「どうしたいのですか」と問いかけたり、思いを聞き、意向の把握に努めている。	○		○	日常生活の中で利用者に声かけをするなど、会話の内容や利用者の表情を観察し意向や思いを把握するように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	情報や言動から、どうしたいのか考えたり、ご家族の意向に応じた対応をしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時には、最近の様子と対応について説明したり、ご家族や兄弟、知人からは、「昔はこうでした」と教えていただく方もいる。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居者の訴えや行動が普段と違うことがあればケース記録し、職員間で共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	決めつけがちであるが、なるべく本人の思いに配慮し、対応を心掛けている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に調査に行き、本人やご家族と共に生活歴や既往歴、生活状況や身体状況、介護に対する意向などをお聞きし、作成している。			◎	生活歴や嗜好品などを利用者や家族、友人等から聞きとり、フェイスシートに記載している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の関わりの中で、できること、できないことを判断し把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中での会話や行動を観察し把握に努めている。不安そうな時は、気分転換が出来るよう支援している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	要因が何なのか把握に努め、関わり方や不安要素を取り除けるよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	毎日、バイタル測定を実施し、記録日中の状態や夜間の状態を記録し、いつもと違う変化について把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	得た情報を基に、ミーティングや職員会議で話し合いをしているが充分ではない。			○	日常生活の支援の中で職員が汲み取った利用者の希望や思いを、職員会議などで話し合い共有している。面会時には家族にも情報を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティングや職員会議で話し合い、むせ込みや飲み込みが悪くなった方や以前より活気がみられなくなった方について検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	体調面においては、かかりつけ医へ相談し、指示を仰いだりしている。食事形態の工夫や帰宅願望のある方にはご家族へ相談し、協力していただいている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご家族面会時に要望や希望等をお聞きし、また本人からも聞き取り反映できるよう努めている。	/	/	/	事業所内にある道具を利用し下肢筋力をつけ、外出する意欲が継続するよう工夫するなど、利用者の日々の生活に張りが出るよう支援している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族に要望や希望をお聞きし、これで良いか確認し、了承を得ている。その人らしい独自のプランになっているのか、もっと掘り下げた介護計画にする必要があると思う。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の方は、意志確認が難しく健康管理が主体になってしまうことが多い。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	協力いただける家族や親戚の方、Dr等サービス内容に取り組んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	一人ひとりのケアサービス提供票を作成し共有しながら、毎日どうだったかチェックしている。	/	/	○	利用者の介護計画第2表をユニット毎にまとめ職員が閲覧できるようにしている。ケアの実践は、利用者別ケアサービス提供表に実施した職員がチェック確認し共有できるようにしている。日々の暮らしの様子の記録には至っていないが、病状変化等がある場合は時系列に記録されている。利用者個々に対する気づきや工夫については記載されておらず、今後工夫やアイデア等を組み込んだ支援を期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日、一人ひとりのサービス内容をチェックし、職員間で確認しながら、ケアを行い、実践できている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日、短い文面ではあるが、記録できている。しかし、職員間で格差があると感じている。状態変化があった場合は時系列に添って記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	日々の行動やレクリエーション等楽しんだことを記録しているが、気づきや工夫、アイデア等掘り下げた内容の記録には至っていない。	/	/	△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	入居者の状態によって、3ヶ月また6ヶ月毎に見直しをおこなっている。	/	/	○	3か月もしくは6か月で見直しを行なっている。月1回担当職員がモニタリングを行い、その記録を基に介護支援専門員が見直しの参考にしている。計画再作成時には担当者会議を行い、家族も交え話し合い見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	介護計画に沿って、毎月モニタリングを実施し、現状確認をおこなっている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後などは濃密カンファレンス、変化が生じた場合もケアカンファレンスを実施し、ご本人やご家族からも引き続き要望等伺いながら作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ミーティングや施設長を交えての職員会議で話し合いをおこなっている。	/	/	○	職員会議を定期的に行い話し合っている。気になることがある場合はミーティングを実施している。参加できない職員には記録を回覧し、会議内容が共有できるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換とまではいかないが、遠慮なく考えや気持ちを話し合えるように努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は全員参加ではないが、出勤していない職員には、それぞれの意見や疑問点等事前にメモ書きしてもらい会議で反映させている。しかし、一部の職員だけで全員から意見等が集まることはない。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議担当の記録係が会議内容を作成し、職員全員に閲覧できるよう日誌に綴じている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌を主に活用しているが、別に家族連絡ファイルを作り、職員間で共有できるようにしている。	/	/	○	日誌や会議録など内容を確認した職員は押印しており、管理者が最終チェックし押印できていない職員については、再度確認の上説明するなど、全員が把握し共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日誌には簡潔に記入し、パソコン内のケース欄に記録し情報が共有できるようにしている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一人ひとりは把握できていないが、散歩や畑の野菜の育ち具合、リハビリ、カラオケ等思いに添えるように努めている。				併設の特別養護老人ホームの行事参加への意向や、入浴の時間、散歩、外出や日常生活の中での役割など何をしたいか、利用者自身に決定してもらうよう努めている。日常生活の中で声かけや雰囲気づくりを工夫するなど、利用者のいい表情が引き出せるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	クラブ、行事への参加や外出等ご本人へ聞いて支援している。また、パン食時飲み物は何かが良いか自分で決めていただいている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	夕方になると家への思いが強くなったり、自身で折った鶴を人にあげて喜んでもらいたい等の思いに対し、家族の写真を見せて落ち着いてもらったり、他入居者の方々に鶴を配って直接お礼を言ってもらって心を和ませてもらっている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝時間は一人ひとりのペースに合わせて対応している。食事についてもゆっくり食べられる方は、少し早めに食べていただいたり、焦ることのないよう配慮をおこなっている。				
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	その人の得意なことや好きなこと、昔の話をすることで生き活きた表情がみられる。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難であっても、歌やリハビリが好きな方は、手拍子をされたり、職員のマネをしてリハビリをおこなっている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員研修会において、全員参加し学んでいる。人格をもった一人の人間として接している。	○	◎	○	法人全体で研修会を開催しており、夜勤者以外は全員参加している。研修会で学んだことを活かせるよう努め、トイレ誘導など声かけや支援方法も考慮している。利用者の居室には、声かけし利用者に許可を得て入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	トイレでの排泄支援をおこなう際には、人前であるにも関わらず「トイレにいけますか?」と声かけする時がある。耳元やさりげない行動で配慮すべきだと反省することがある。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレの戸を閉め、排泄時間を確保している。脱着時や入浴時等プライバシーに配慮している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際には、ノックをして入室している。リビングに居られる時は、声かけをし入室の許可を得ている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護に関する義務が課せられていることを理解し、順守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	入居者にお手伝いをしていただき、「いつも助かっています。ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えている。また昔漁師だった方からは、ロープの縛り方など教えていただいた。				職員が利用者を常に見守っており、利用者同士の会話には注意を払うほか、関係性を重視した席配置にするなど配慮しており、トラブルには発展していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	入居者同士が声をかけ合い、食事やティータイムを摂ったり徘徊する入居者に声をかけたりしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者の方々の関係性を把握し、トラブルを回避している。ソファの座る場所や孤立しがちな入居者には、ユニットレク(作品づくり等)を通して一緒に交流する機会を作っている。また徘徊する入居者に声をかけ、隣に座り会話されている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	その際には職員が間に入り話題を変えたり、歌を歌い気分転換を図ったりしている。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時のフェイスシートや面会時等である程度、把握できている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	生活歴や本人が会話の中で時々口にする場所などで把握できている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人が訪ねて来られ、一緒にお花見や忘年会に出かけられる入居者の方もいる。また宗教の祭りに外出し参加された。ご家族と外出された時に、自宅へ寄り愛犬と触り合ったり、近所の人と話をしたり、なじみの人や場所が途絶えないように支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られたら、飲み物をお出しし居室でゆっくり過ごしていただいている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	近くのスーパーに買い物へ出掛けたり、天候の良い時は、ホーム周辺や敷地内を散歩したり、畑の草引きや種まき、野菜の収穫等もしていただいている。また特養でおこなっているクラブや行事にも参加したり、季節毎のドライブで楽しんでいただいている。	○	○	○	敷地内にある菜園での収穫や草ひきを行ったり、車いす等重度の利用者も含め、散歩や外出、ドライブに行けるよう支援を行い気分転換を図っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方やボランティア、認知症サポーター等の協力を得て外出をおこなっていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子を使用し、散歩や日光浴等で気分転換していただけるよう支援している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族や知人の方に協力をしていただき、宗教場所やカラオケ喫茶、また孫家族と小旅行に出掛けられた入居者もいる。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員研修会や職員会議等において学び理解はしているが、全員が正しく理解し、対応にあたっているとは言い難く個人差がある。				食事の場面や排泄での支援でも、利用者ができることは見守り、利用者自身ができることはしてもらっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下の特徴を理解し、毎月のラジオ体操やペダル漕ぎ運動による筋力低下予防、口腔体操による嚥下機能の低下予防等を日常生活に取り入れ維持、向上に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	入居者一人ひとりのできることに目を向けて対応している。折り紙の作品作りにおいてどこまでできるか見極めそれぞれできそうなところまでしていただいている。また入浴時や排泄時には、自身でできるところまでしていただくよう見守っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴や趣味・特技を踏まえ、それぞれ活かせる取り組みを支援している。				掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の後片づけなどを手伝ってもらなど、利用者は役割をもって過ごしており生きがいに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ペン習字やドリル計算、俳句作りを楽しまれたり洗濯たたみやテーブル拭き等のお手伝いをしていただくことで張り合いが持てるよう支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	近隣の小学校運動会や発表会への参加、地域文化祭見学等に出掛け楽しみが持てるよう支援している。しかし、関わりがまだまだ少ないと感じている。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎日お化粧をしたり、髪留めをしたり身だしなみやおしゃれを楽しまれている。				食事中の食べこぼしなど、利用者がいやな思いをしないようさりげなく支援している。重度であろうと利用者全員の整容をチェックするほか、好みの衣類を準備しその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時にご本人の好みの衣服を持参している。また以前からの美容室に行き、好みの髪型にしている方もいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	「これにしますか」と衣服を見せたりするが反応がない時は、職員サイドで選ぶことが多い。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段着と外出着を区別している。また外出する時は、スカーフを巻いたり帽子を被り、その人らしい服装で出掛けしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣の乱れや食べこぼし、口の周囲の汚れに気を付けている。鼻水やヨダレが頻繁に出ている入居者には、ティッシュでさりげなく拭いている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容師にホームへ来てもらったり、ご家族と外出し、散髪して帰ってこられる人もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご本人に似合う髪型を希望しカットしてもらったり、好みそうな服装を支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の栄養価やバランスはもちろん、食事は一連のプロセスで五感を研ぎ澄ませることができ、もっとも楽しみの一つである。				食事は職員が注文しスーパーからの配達である。おやつのみ利用者と共に近隣のスーパーに出向き、一緒に選んで購入している。献立には、季節に応じた郷土料理が入っており、利用者も「この食事はおいしいのよ。」と嬉しそうに話されていた。茶碗や箸など使い慣れたものではないが、軽く割れにくい使いやすいものを使用している。職員は利用者と同じ食卓に座り利用者の食事介助や見守りに徹し、誤嚥や利用者同士のトラブルなどに対応できるようにしている。利用者全員が食卓を囲み料理ができるまでの時間を過ごし、音やにおいを感じ食事を待っている様子を窺うことができた。法人の栄養士が献立を作成しており、アレルギーを考慮し利用者にとってバランスの取れたメニューを提供している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立は特養の栄養士が考えたものであり、食材は近くのスーパーより配達してもらっている。おやつは入居者と一緒に近くのスーパーに行き、買い物をしたり、下膳等してもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつは、近くのスーパーに行き食べたいものを選んでいく。ごぼうのささがきや豆のすじ取り等下ごしらえをしていただいたり、下膳やテーブル拭き等後片付けをおこない、力の発揮と達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時の聞きとり等で把握している。フェースシートに記載している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春には筍料理や地元名物カツオのたたきを提供している。また毎月1日には赤飯や里芋汁、冷汁等昔懐かしい味に喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの咀嚼・嚥下状態の把握をし、食事形態を工夫して提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	一人ひとり別々の物ではないが、使いやすく割れにくい物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は入居者と一緒に食事を摂っていない。入居者一人ひとりの食事のペースに合わせた声掛け見守りをおこない、混乱しないよう配慮している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	各居室は、台所から聞こえてくる音やにおいを感じることができ、メニューを伝えることで食欲をそそっている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりの食事量や水分量を把握している。1ヶ月毎の体重測定で増減をチェックし管理できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量の少ない時は、段階的に食事形態を工夫したり、高カロリーの補助食品を摂っている。水分は好きな飲み物(ジュースやコーヒー等)で摂ってもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	特養の栄養士が立てた献立を基に調理している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板やふきん等のハイター消毒や熱湯消毒を毎日おこなっている。食材は2日分を配達してもらい、新鮮な食材を使用している。賞味期限切れがないか確認している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	特養での職員研修会に参加し、口腔ケアの必要性・重要性を学んでいる。				口腔ケアの勉強会などを法人内で開催している。洗面所が各居室にあり、一人ひとりに応じた口腔ケアの準備は整っており、口腔内の清潔保持は常にできている。自分で歯磨きができる利用者に対しては口腔内の確認ができていないため、今後は利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握する支援を期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	一人で磨く人は、口腔内を確認できていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	毎月一回、口腔ケア委員会へ職員が出席をし、歯科医より指導、助言を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	職員が付き添い支援している。週3回はポリドント洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	コップや歯ブラシは準備し、それぞれにできることをしてもらっている。全介助の入居者はそれぞれに合った方法で口腔内の清潔に努めている。（歯磨きティッシュの使用等）			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	ご家族に連絡をし、それぞれの行きつけの歯科に受診してもらっている。また状態に応じ往診していただいている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	状況に応じて使い分けをしている。安易にオムツや紙パンツにすることがないよう気をつけている。				トイレでの排泄を基本として、昼間は紙パンツ、夜間はテープ止め紙オムツにするなど、利用者個々に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事量、水分量、運動不足、腸の動き等原因となり落ち着かなくなり、不穏状態になっていく等、及ぼす影響について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	一人ひとりの排泄チェック表に時間を記入し対応、排便あれば時間を○で囲み、量については線（点線または一本線）を引き、全員が把握できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの排泄状況を把握したうえで、今後も必要性・適切性について見直ししながら快適に過ごさせるよう努めていく。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量や活動量を増やしたり、腹部マッサージをしている。またほぼ毎日おやつにヨーグルトを食べていただいている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	入居者の方、それぞれの排泄パターンや兆候をキャッチし、早めの声かけや誘導をおこなっているが間に合わず失敗されていることもある。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	オムツ代はご家族負担である為、相談をさせていただくが、「どのような物が良いかわからないのでお任せします」と言われることが多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	入居者一人ひとりの排泄量や状態に合わせて随時見直し、検討をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	△	ヨーグルトを食べていただいたり、多く水分を摂っていただく等しているが、一部の方は自然排便が行えず飲み薬や座薬を使用している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴回数や曜日は決めている。湯加減や時間はそれぞれの方の好みを把握しており、支援できている。	◎		△	週2回の入浴を基本としているが、入浴時間は午前中のみと決めている。曜日の変更も難しいため、午後からの入浴や入浴日も要望に応じるなど、今後は柔軟な対応に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくり好みの湯加減と時間で入浴していただいている。夏至にはゆずを湯船に浮かべ喜んでいただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声かけしながら、できる範囲はしていただき、声かけ見守りながら安全への配慮をおこなっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴好きな方がほとんどであるが、時々「今日は入らん」と言われる方については、時間を置いたり、職員を替えたりなどして対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、バイタル測定を行い、昨日や朝の状態を確認し支援している。入浴時には皮膚の状態も確認し、入浴後は水分補給をおこなっている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間、入居者の方それぞれがどうであったかケースへ記録できており、職員で共有できている。				夜間不眠で困っている利用者に対して、話を聴いたりリビングで一緒にテレビを見るなどの支援をしている。安易に睡眠導入剤に頼らないよう努めているが、やむを得ない場合は、夜間の記録を持参し医師と相談しながら薬を使用する場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	散歩等で活動量を増やしたり、音や明るさを配慮している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	体調的な面から夜間ゆっくり休んでいただくようご家族やかかりつけ医に相談し服用に至った場合もある。今後もご家族やDrと連携しながら、対応に努める。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	各入居者それぞれ個室になっており、休息や昼寝等自由に過ごしていただいている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	誕生日や母の日に贈り物が届いた時は、本人から直接お礼を言っていたい。また遠方のご家族から手紙や写真を送って来られる。短い文の手紙を書き、面会時に直接お渡しした方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話して欲しいと訴えがあった時は職員が連絡を取り、繋がったら本人と変わり通話されている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族へ電話をして欲しいと訴えがあった時は、本人からではないが職員が連絡を取っている。携帯電話を持参している入居者もおられる。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙や葉書が届けば、直ぐに相手と連絡を取り近況報告し、ご本人とも通話していただいている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	贈り物や手紙が届いたら、直ぐに電話連絡し相手の方からも喜んでいただいている。手紙や写真を受け取られるととても嬉しそうに何度も見たり読んだりしていることをご家族等へ報告はしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ているが支援はおこなえていない。一部はお預かりはしているが、お金を所持されている方はいない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ほとんどご家族が必要物品を持参されたり、ご本人と外出した際に購入している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近隣のスーパーにお菓子等の買い物に職員と行っているが、スーパーまで遠く歩いて行ける距離ではなく働きかけはおこなっていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	少額のみお預かりし、管理をおこなっている。以前に勘違いからお金を貸したのに返してくれないと他入居者のご家族へ訴えられ嫌な思いをされたトラブルがあった。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	預かり金台帳に記入し、お金の入出金を記入し、ご家族面会時に確認していただいている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	入居時にご家族と預かり金等管理依頼書や金銭管理出納サービス契約書を締結している。預かり金台帳に入出金を記入し、ご家族に確認していただいている。また預かり証をお渡ししている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族の都合により受診介護できなくなった入居者は職員で対応したり、送迎介助等支援している。	◎		◎	病院受診など家族に支援を依頼する場合もあるが、利用者や家族が希望すれば職員が受診の送迎から付き添いまで対応するなど、状況に応じて支援を行っている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	特養と同一敷地内にあり、玄関周りには季節の花を植えたプランターを置いている。小高い山の中 腹で特養から奥に入っており、静かな場所に建てられている。	◎	◎	○	玄関先には季節の花を飾っているほか、掃除が行き届き、気持ちがよく清 潔感が感じられいい雰囲気である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	リビングを中心として各居室に分かれているため、リビングでは居心地よく過ごしていただいている。 玄関等には季節を感じられる物を入居者と一緒に作り、飾っている。毎月のカレンダーは入居 者に字や数字を書いていただき作成している。	◎	◎	◎	事業所が建て替えられまだ1年であり清潔感が漂い掃除も行き届いてい る。リビングの壁には絵画や利用者の作品が飾られている。大型テレビの 前にゆっくりと腰掛けられるソファがあり、利用者がそこに座り趣味の折り 紙を折っている情景が見られた。リビング正面の大きな窓からの光や風は 心地よいものだと感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	汚れがあればすぐに拭き取り、トイレ後の臭気対策も行っている。毎日床消毒も行い、清潔が保て ている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	台所から聞こえてくる材料を切る音や匂いで食欲を刺激したり、ホームの畑ではきゅうりやじゃがい も、玉ネギ等の季節の野菜の植え付けや収穫を手伝っていただいたりと、五感に働きかける支 援を行っている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングのソファや気の合う隣りのユニットの入居者の方々と思い思いに過ごしていただいている。 各個室となっており、居室がリビングへ通じている為、人の気配を感じながらもプライベートが確保 出来ていると思う。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫をしている。	○	トイレや浴室にはドアがあり、浴室にはカーテンが設置されており、プライバシーを保つことがで きる。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	家庭で使っていたイスやのれん、使い慣れたダンスや机を持って来られている方もいる。またご家 族の写真飾られている方もおられる。	◎		○	利用者が自宅などで使用していたお気に入りの物を持参し、趣味活動が継 続できるよう居室に自由に配置している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室い洗面台があり、一人ひとりに応じた口腔ケアや洗面を支援している。			○	手すりを設置し安全を確保しているほか、歩行に不安があっても歩行器を 使い、できる限りひとりで歩けるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	トイレ洗剤等の危険な物品は入居者の目に触れないようにしている。居室も名札があり、自分の部 屋だと認識できるようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	歌詞本や新聞、雑誌等リビングテーブルに置いてあり、いつ、誰が見てもいいようにしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	施錠は多くの弊害をもたらすことを身体拘束高齢者虐待防止委員会や職員研修会で繰り返し学ん でおり理解できている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかける弊害を理解し、玄関は自由に出入りできるようにしてい る。職員が常に見守りを行い、安全に日常生活が送れるよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中は、ホーム内全てに鍵をかけないということを認識されている。面会時はいつでも自由に来訪 されている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく もすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関にのみ報知機を設置し、チャイムで出入りが分かる工夫をしている。そのチャイムで職員は確 認しながら対応できている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時のフェースシートやご家族の情報等で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	常に状態を観察しながら異常の早期発見に努めている。異常があれば時系列でケースに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	普段とは違う症状があれば看護職員やかかりつけ医へ連絡、相談をし処置や受診の方向へ繋げている。早期発見であればあるほど症状も軽く入院期間の短縮や回復が早く以前の生活に戻ることができる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでにかかっていた医療機関や医師で受診を継続されている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人やご家族の希望を取り入れた医療機関に通院し、適切な医療を受けられている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	職員が受診介護をおこなった時は、ご家族へ報告、結果の電話連絡をしている。ご家族対応時にも伝達は日誌やケースに記録をし共有している。詳しく聞くようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際はケース記録やバイタル表、既往歴、服薬手帳等を持参し、情報提供をおこなっている。お気に入りのぬいぐるみを持参することで落ち着く等の情報提供をおこなった。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	お見舞いに行き、実際に状態を確認したり、病院関係者との連携に努めている。退院前のカンファレンスに出席し退院後の対応について情報を得ている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時には、面会時や電話で連絡を取っている。病院関係者との連携について今後話し合う予定である。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護職員が配置されており、少しでも状態に変化があれば報告し、対応してもらっている。かかりつけ医や救急外来等へ連絡してもらったり、日々の処置やバイタルサインに変化があればすぐに知らせ対応してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職員が配置されており、連絡体制は出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定し状態を把握、また少しでも普段と違う兆候が見られたらすぐに看護職員へ報告し医療機関等への対応をしてもらっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	医療機関から出された処方箋を各ケースへ綴じているが、職員全員が把握しているかはわからない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	看護職員が薬を仕分けし、介護職員が2名で名前等確認し、本人の前でもう一度、声に出して名前を確認してから服薬していただいている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の状態を観察しながら、少しでも変化があれば看護職員へ報告し、Drへ相談してもらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日中夜頻繁にトイレに行かれる入居者へ薬の処方があり、状態等記録をし、ご家族や医師、看護職員とも共有できた。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約書に重度化した場合や終末期のあり方について記載しており、説明をおこなっている。段階ごとにご本人やご家族と話し合い、意向に沿えるよう努めている。				利用者が重度化した場合、主治医を交え家族や利用者と職員とが話し合いを行い、思いを把握し看取り支援につなげている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医から病状説明をご家族と共にお聞きし、話し合い職員へも現況を報告している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看護職員や職員と話し合い、知識や技術的な面も考慮し、どこまでの支援ができるか見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事業所でできること、できないことについて説明をおこなっている。またその時々で、ご家族からの問い合わせ等あれば説明をし、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化し病院で終末期を過ごされる方については、ご家族や担当看護師に状態をお聞きしたり、お見舞いに伺い、本人やご家族の心情に寄り添った終末をホームでこのまま迎えたいとの希望があれば、ご家族の意向に沿い支援をおこなっていきたい。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	ご家族の精神的、身体的な負担にならないよう、思いをお聞きし、少しでも気持ちが楽になるよう配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	特養含む職員研修会で定期的に感染症について学んでいる。毎年12/1～3/31又は4月初旬まで、インフルエンザ対策でマスク着用を義務付けられ、手洗いや各所消毒で、29年度は発症者が一人も出なかった。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	職員研修会で実践している。ノロウイルス感染者が嘔吐し、その処理の仕方を実技を交え、訓練しているが職員の知識や技術レベルの差があると感じる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症対策を安心マニュアルにも記載し、特養よりすぐに感染症発生情報がもたらされ対応できている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	特養よりすぐに感染症発生情報がもたらされ、対応できている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いやうがいの実施、感染症が発症する12/1～4/31までは出勤時に検温したり、来訪者にも手洗いや検温等で対応した。気持ちよく応じていただけた。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には、ご家族とご本人についてお話をしたり、思いを受け止め、良い関係づくりを築いている。				家族の行事への参加は、移転してから具体的な取組みができておらず、併設の特別養護老人ホーム行事に参加するだけになっている。今後以前のような行事や取組みを検討するなど期待したい。利用者の写真が掲載されている機関紙「自在」と「みしょうの里だより」を家族などに送付している。家族の面会時などには、事業所の運営上のことや職員の異動等についても報告している。利用者が病気になっても好きな物を食べさせたいという家族の要望に応えるなど、家族からも相談しやすい環境を支援に活かしている。家族の面会時には常に声をかけるようにしており、何でも気軽に相談できるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時には、笑顔で気持ちの良い挨拶を心掛けている。またゆっくりと過ごしていただけるよう、好みの飲み物をお聞きし、お出ししている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	移転前は、夏祭りに食事や花火と一緒に楽しんでいただいたり、ソーメン流しやクリスマス会に参加していただいた。移転してからは、特別な催しはおこなっておらず検討が必要。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	毎月発行する社会福祉法人御荘福祉施設協会の機関誌にみようの里だよりとして、日常のひとこまを写真付きで掲載し、送付させていただいている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族は、入居者の方が重度化した場合や入退院時に対して不安があり、相談されることが多い。また新入所の方であれば買い物や外出についても相談があり、丁寧に説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	ご家族との関係性を理解しており、それぞれに見合った対応に努めている。ほとんどの入居者に月1回のご家族の面会があり、より良い関係が築けている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	面会時や大まかな行事予定は機関誌で報告をおこなっている。利用契約に一部でも変更があれば電話でまず主旨を説明している。また職員の異動や退職時には、面会時に報告している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	特養での盆踊りや運動会に参加していただき、その時には大勢のご家族の参加があり、交流できた。ご家族同士の交流に向けて検討していく。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	転倒や誤嚥のリスクの高い入居者のご家族には、状態を説明している。異食の危険性のある方には、素材や持参するものについて話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、意見や要望、心配なことなどについてご家族へお聞きし、気軽に相談していただけるよう声掛けをおこなっている。また玄関へ意見箱を設置しているがまだ投函は1件もない。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	利用契約書に記載し、内容等に変更があった場合は、説明を行い理解・納得していただいている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	死亡による退居はあるがそれ以外の理由による退居された例はない。退居時の援助として利用契約書に記載されている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	利用契約書に基本料金や加算料金、加算の内訳や介護保険給付サービス等（家賃・食費・光熱費・共益費等）記載し、説明により同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の代表者（区長）や地区の代表者・民生児童委員・町役場の方に出席していただき、運営推進会議等を利用し説明し、理解を深めていただいた。		○		町の地域交流文化祭に利用者と参加し大勢の方と交流をしたり、地方祭では子供の頃から馴染みのある唐獅子などの行事を楽しむなど、地域との交流を深める取組みに余念がない。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	町の行事に出掛けたり、近隣小学校の運動会や発表会への参加、施設が主催する地域交流文化祭では、大勢の方の来訪があったり、また地方祭では牛鬼・四ツ太鼓・ハツ鹿、唐獅子等こどもの頃から慣れ親しんだ催しを楽しまれている。		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	職員の中には、地域の一人暮らしの方を見守りサポートする見守りネットワークに参加している。オカリナ演奏に毎月来て下さるボランティアの方もおられる。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	山の中腹という環境にあり、時々見学に来られるものの気軽にというほどではない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ホームのすぐ上に一軒あり、鶏の鳴き声が聞こえたり、猫を見かけたりし、車ですれ違った時など挨拶は行うものの日常的なお付き合いには至っていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	特養が色々な行事を開催する時に参加し、顔を覚えていただいたり、特養入居者のご家族がオカリナ演奏に来て下さっている。当初は一人であったが、現在は2名での来訪となった。29年度には夏休み子どもボランティアに取り組み職場で働く姿を見たり、入居者と交流した。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	魚では鯛やカツオ。鯛めしにしたり、カツオのタタキ、また冷や汁や包丁汁等、昔から馴染みのある料理が一番の活力となっているのでは、と思い、出番を増やしている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	近隣のスーパー等からの食材配達、美容院来訪によるカット、消防署と連携しての消火訓練や避難訓練、非常災害時の対応（風水害）、救急救命講習、警察署より不審者対応についての講習、町内ののグループホームや小規模多機能施設との合同会等関係を深める取り組みを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2ヶ月毎に開催しており、毎回ご家族や地域の方に出席していただき声をお聞きしている。入居者も2～3回参加したが、毎回ではない。	×		△	運営推進会議では、外部評価の結果報告等はしているが、運営推進会議に出席していない家族等もいるため、今後機関紙と一緒に会議の議事録を送付するなど、外部評価の周知等を行い家族にも理解してもらうような取組みが望まれる。会議での意見として、外灯の設置等の要望が出され、即検討し設置に至るなど早急に対応している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価への取り組み状況や内容等会議において報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の中で夜間、避難誘導時に足元が危険な為、グループにも外灯が必要ではないかという意見を区長さんに言っていただき、センサーライトを設置した。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたりはないが、参加される方に連絡を取り、都合のよい日程や時間帯に合わせて行うよう配慮している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでもどなたにでも閲覧していただけるよう会議録は玄関に設置している。またメンバーの方に前回の議事録をお渡ししている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「日々の暮らしの中で語り合いその人らしい生活の支援」を理念として掲げ、目に付きやすい場所に掲示し、確認しながら取り組んでいるが、時には入居者の思いを見過ごすこともある。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	面会時に、目に付きやすいリビングに掲示している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	全員のケアの実際と力量は把握しきれていないと思う。法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいるが、高齢者雇用となった者については外部研修は実施していない。				代表者は法人全体の親睦会として、夕涼会やレクリエーションを取り入れ、職員同士が交流し会話できる機会を提供しストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	法人内の新規採用職員研修会開催等においてスキルアップ向上にむけ取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度を取り入れ、本人の目標や要望・意見等、また面接において意見を聞き、職場環境や条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内のグループホームや小規模多機能施設の代表者が集まり3ヶ月毎に会合を開催し、意見交換しながら情報を収集し、職員の意識が少しずつでも向上するよう取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	親睦会の中で夕涼みやスポーツレクリエーション、忘年会等を組み入れ、各事業所が一体となるよう取り組んでいる。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束高齢者虐待防止委員会を開催し、話し合っている。職員研修会でも外部講師を招き、学んでいる。				法人作成の虐待防止に関するマニュアルを掲載した「安心マニュアル」を職員全員が常に携帯し、不適切なケアがないよう日々業務に励んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議のみならず、少しの時間を見つけては、ミーティングを行い、振り返りをしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ほんの些細なことを見逃せば、取り返しのつかない状態になってしまう事を理解している。発見した場合はすぐに報告し適切に対応していく。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	顔色や表情、声のトーン、入居者の方への接し方等を確認しながら日頃と違う変化に気をつけてはいるが、見逃している時もあると思う。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	行動を制限する為に紐でしばったり、ベッドを柵で囲ったり、ミトンの手袋やつなぎ服の着用等の禁止、緊急やむを得ない場合とは、切迫性、非代替性、一時性の3つの要件をすべて満たしていること等、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に職員研修会で学びながら、話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今まで家族から要望はないが、拘束をしないケアの取り組みは出来ている。センサーマットの使用やベッド柵には鈴を付けたり、玄関には報知器を設置したりと工夫している。				

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	福祉サービスの利用や書類の書き方等社協の生活支援員が行うのが日常生活自立支援事業、成年後見制度は認知症などにより判断能力が十分でない方の財産管理等を行い家庭裁判所で認められた方等、毎年職員研修会で学んでいるが、全員は理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	成年後見人制度を利用される対象者はおらず、情報提供や相談等の支援はおこなっていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	制度を利用される対象者がいない。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	職員全員で作り上げた安心マニュアルを各職員が所持している。各症状別対処方法も掲載しており、確認している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	誤嚥等の訓練は受けているが、急変に対応できる職員は限られている。異変があればすぐに看護職員(グループ担当の看護師が不在の時は特養の看護師)に知らせバイタル測定を行い、看護職員の指示に従っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	些細なことでもひやり報告書に記載、受診した場合はインシデントや事故報告書に記載し、職員全員で再発防止に向けて検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	立ち上がりや歩行時にふらつきがあれば転倒し骨折のリスクがあり、誤嚥による窒息や顔色が悪ければ意識障害を起こすリスクも考えられ、見逃さないよう対応に努めているが、職員のレベルにより対応できていない時もある。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	安心マニュアルの項目の中に「相談・苦情処理体制」を作成、相談や苦情があった場合についての検討を行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	代表者に報告する等、速やかに手順に沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	グループとしての苦情は1件のみ。入居者の方の体調が悪化し、看護職員が頻繁に状態を報告していたところ、家族より「連絡が多すぎる。仕事でなのにそんな細かい報告はいらない」との苦情があった。ご家族より「何でも知らせてください」とあった為の対応だったが、配慮に欠けていた。今は良好な関係が築けている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員2名の方に来訪していただき、入居者とお話する中で、思いや気持ちを汲み取っていただいている。職員も日頃から何でも話せるような雰囲気づくりに努めている。			○	法人に人権擁護委員が配置され、利用者が職員に言えないことを聞く環境づくりを行っている。家族等からは面会時や行事開催時、運営推進会議などに相談する機会を設けている。管理者は職員と利用者に関する話し合いも常に行い、意見や提案を検討できる関係が築けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口や意見箱を設置したり、運営推進会議・または意見等あれば個別の対応に努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	御荘福祉施設協会全体としての「苦情申出窓口」を設置し、相談を受け付けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	年に1回は職員全員と面接を行っている。本音の部分は話せていないと感じる。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	関係性は築けており、日頃からのミーティング等話し合いの中で入居者の方それぞれに合わせ、その人らしく生き活きと生活していただけるにはどうすればいいか検討を重ねている。			○	

愛媛県グループホームみしょうの里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	提供している支援が適切なものか振り返ることが出来、第三者の客観的立場からの評価により、利用者本位の支援の為のサービスの質の向上に繋がっている。				評価結果の報告はできているが不十分なので、今後は取組み状況も報告し、家族など会議の参加メンバーにモニターしてもらうなど、今後の運営にも活かせるよう検討することが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価後は改めてそれぞれの項目を振り返り、特に出来ていない事や出来ていても見過ごしていること、家族アンケート結果や調査員の意見を参考にしながら話し合っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて達成計画を作成し、家族アンケート結果や調査員の方の意見を参考にさらなる支援の向上に向けて取り組んでいく。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議(家族代表の方も参加されている)で詳しく報告はしているが、今後の取り組みのモニターはしていただいていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に沿って、今よりも少しでもサービスの質が向上するよう取り組みについて記載し、成果を確認していく。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・風水害等の災害発生時の対応についてマニュアルを作成し、各職員が所持しており周知できている。				年2回の避難訓練は実施されている。うち1回は、消防署立会いで実施している。地域に住居が少なく連携が難しいが、併設の特別養護老人ホームと合同避難訓練を計画実施するなど、災害時等の連携強化に取り組み、利用者の安全確保に万全を期すことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署に協力をお願いし消火訓練、日中や夜間を想定しての避難訓練、非常災害時の対応(風水害)、救急救命講習、警察署からは不審者対応についての講習や実技があり、参加しながら職員全員で学んでいる。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	火災発生時の警報器や消火設備についてはスプリンクラーや消火器を設置しており、避難訓練では避難経路を再確認している。非常用食料等は特養に地域の方まで受け入れ可能分準備し、定期的に確認し期限内に入れ替えている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域住民の方とは運営推進会議や法人全体の様々な行事等での連携、また急患が出れば5分もかからず駆けつけてもらえる消防署との連携、それに続く医療機関、他事業所との交流等支援体制が確保出来ている。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	グループ独自には取り組んでいないが、法人全体としての災害時の責任者を擁立しており、その職員や法人の代表者が警察での講習会に参加したりし地域の災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーターとして、地域住民に認知症を少しでも理解をしていただく為に出向いたことがある。代表者は県の認知症講師を務めており、法人でもその知識を活かし勉強会を開催することもある。				地域の人達の相談支援には至っていないので、法人にも協力してもらい、事業所の広報活動を行い地域の相談拠点となるような事業所を目指して欲しい。法人全体として教員研修の受入や学生の実習受入れ、また町のイベントなどにボランティアとして地域活動を行うなど、地域のケア拠点となっている事業所である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談支援とまではいかないが、「グループにはどうすれば入居できるのか」との相談が多い。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループでは行っていないが、特養の文化祭時に地域の方の手作り人形やパッチワーク、絵画のコーナーを設け展示したり、会議室をスポーツクラブ等の会議に使ってもらったこともある。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	教員や学生を介護体験事業の一環として受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町のイベントにボランティアとして道案内やお接待等で参加させていただいている。その中で顔見知りとなり、繋がりが出来、施設の盆踊り大会や文化祭等に来訪していただき入居者の方と挨拶やひと言ふた言言葉を交わしたり。それが発端となり、さらに広がっていている。法人の1年にも及ぶ教員の受け入れや学生との繋がりが、御荘福祉施設協会全体として地域のケアの拠点としての機能は拡大していていると思う。			◎	